

近藤清石著
山口縣史畧

周防國之下

三

和書門			
類	號	函	架
	四七二六	一三三	一
		八	

內閣文庫			和書
架	冊	號	類
一四〇	二	三四七二六	
三	八		

內閣文庫		
番號	和	44726
冊數	8(3)	
函號	140	310



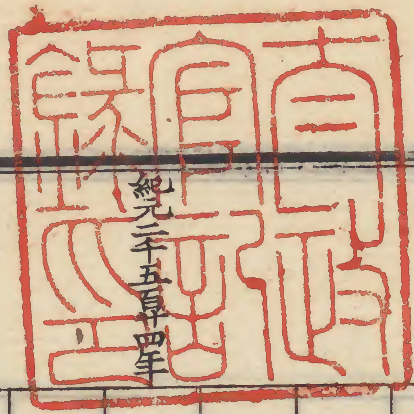
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





紀年五十四年

山口縣史略卷第三

山口縣士族 近藤清石 著

周防國之下

元治元年正月十三日綿價騰貴スルヲ以

テ國內ニ令シ養蠶セシム敬親事跡十五日慶

親居館ヲ高嶺ノ東麓ニ經始ス見聞誌是月

義勇隊水井通一精山本朝正誠一薩摩ノ

海船ヲ熊毛郡別府浦ニ火キ船主大谷某

ヲ斫リ其首ヲ携テ脱走ス忠節事二月十

山口縣史略 卷之三

博古堂藏

一日慶親美禰郡ニ如キ民情ヲ視察シ萩
 ニ回リ十二日山口ニ還ル敬親事跡二十三日
 學校及ヒ社官ニ神道興隆ニ注意スヘキ
 ヲ命ス上同是月山口ニ居館ヲ創立スルヲ
 願フ敬親三月十五日朝廷幕府ヨリ勅使
 ヲ大坂ニ下スヲ以テ未藩一人ニ命ス吉川
 經幹及ヒ宗藩家老一人ニ上坂ヲ命ス敬親
 跡事四月八日國內ニ令シテ火葬ヲ禁ス上同
 十二日砲兵ヲ編成ス上同祇園社ヲ築山ニ



巖島社ヲ鰐石ニ春日社ヲ今八幡宮境内
 ニ移シ高嶺太神宮遙拜所ヲ小郡下郷ト
 臺道村トニ建ツ四社新館ニ臨メハナリ
社傳廿五日慶親三田尻海軍局ニ如キ丙辰
 庚申兩艦ノ運轉ヲ檢シ且ツ在住諸士ノ
 調練ヲ閱シ翌日還ル敬親事跡五月六日祇園
 社落成上棟式ヲ執行ス社傳八日錦小路頼
 徳ノ喪赤間關ヨリ至ル朝倉ノ赤妻山ニ
 葬ル祠ヲ建テ安加都麻社ト名ツク敬親事跡

是月朝廷列藩ノ建議ヲ納レ政途ヲ幕府ニ委任シ勅使ノ大坂下向ヲ止ムルヲ以テ末家等上坂ニ及ハサルヲ命ス上同六月五日定廣梅木原ニ調練ス上同十五日慶親福原元佃ヲ江戸ニ差遣ス同上及日載毛利元周毛利元純吉川經幹山口ニ來會ス上同廿三日慶親國司親相濃信ヲ京師ニ差遣ス是ヨリ先キ慶親父子累疏冤枉ヲ哀訴ス朝廷幕府皆省セス因テ吉田秀實年麻呂等數

輩京師ニ入り三茶客舎ニ潛匿シ朝紳某ニ游説シ將ニ爲ス所アラントス會藩ノ曉ル所トナリテ襲殺セララル是ニ於テ久坂通武寺島呂昭忠三郎來島政久入江弘毅九等憤慨自ラ禁スルヲ能ハス其ノ部下ノ兵ヲ率井告スシテ東上ス慶親其ノ暴舉アラシク恐レ親相ニ鎮撫ヲ命シ若シ命ヲ奉セサル者アラハ軍法ヲ以テ處スヘキヲ諭シ軍令狀ヲ與フ同上及忠節事跡稿既ニ

シテ慶親親相ノ力或ハ足ラサルヲ慮リ、
 亦益田親施ヲ差遣ス。上同七月十三日、定廣
 自ラ闕下ニ哀訴セント三田尻ニ出ツ。慶
 親支藩主ト三田尻ニ赴キ、定廣ニ會シ戒
 飾スル所アリ。定廣翌日ヲ以テ纜ヲ解ク。
 備前ニ抵リ京師ノ變ヲ聞テ引還ル。廿三
 日三田尻ニ至ル。是ヨリ先キ久坂通武寺
 島呂昭等、筑前人真木保臣和泉ト三百人
 山崎寶寺ニ陣シ。來島政久當時森鬼太等
郎ト變名ス

七百人嵯峨天龍寺ニ入り、益田親施ハ幡
 山下ニ屯シ鎮撫ヲ謀ル。親施尋テ寶寺ニ
 移ル。會福原元佃伏見ニ抵ル。親施等之ト
 會議シ元佃一書ヲ捧ケ徳川慶喜ニ哀訴
 シ入京ヲ乞フ。慶喜元佃ヲ伏見奉行邸ニ
 召シ、永井尚志正主水戸川鉾三郎ヲ以テ天
 龍寺其他ノ者ニ歸國セシメ、元佃ニ從者
 數人ト伏見ニ滞在シ、願フコトアル其路ニ
 由リ、謹慎裁許ヲ待ツヘキヲ命ス。是ニ於

テ衆事ノ遂ニ成スヘカラサルヲ憤リ當
 路ノ茅塞ヲ除クニ決シ十八日ノ夜三營
 分路浴中ニ入ル親施一隊止リ山崎ヲ守
 ル元間官道ヨリ北上ス大垣藩兵逆ヘ戰
 フ元間カ先鋒大田直方市之進後御乃木
 高知初太奮前ス敵直方ニ名字ヲ問フ直
 方曰ク大田市之進ナリト一刀之ヲ殪ス
 直方ハ齋藤篤信齋ノ高弟ナリ大垣兵支
 ルヲ能ハス元間之ヲ從フ既ニシテ其埋

伏ニ陥リ高知戰没シ元間銃創ヲ被リ馬
 ヨリ墜ツ家臣扶ケテ遁ル一軍潰ユ親相
 中立賣門ニ向ヒ政久蛤門ニ向フ政久會
 衆ニ藩ノ兵ト蛤門ニ戰ヒ之ヲ破リ追躡
 シテ直ニ御花畠ニ迫リ會藩ト雌雄ヲ決
 セントス諸藩兵皆披靡ス薩藩事ノ急ナ
 ルヲ視テ馳セ至リ衆名淀ノ隊ヲ援ク衆
 名淀兵勢ヲ得テ返戰ス政久自ラ名ヲ呼
 ハリ咄嗟戰ヲ督ス敵兵目ヲ政久ニ注シ

テ狙撃ス。遂ニ其丸ニ中リテ殞ル。親相中
 立賣ニ戰フ。政父ノ死ヲ聞キ沮ンテ進マ
 ス。衆遂ニ潰ユ。親相屢ニ身ヲ以テ免カル。
 通武呂昭弘毅保臣等ハ是ヨリ先キ間道
 ヨリ京師ニ入ル。在藩邸時山直養直弘忠
 負勝之助等自ラ藩邸ヲ火キテ之ニ會シ。直
 ニ堺町門ヲ奪ヒ。鷹司氏ニ趨リ。輔熙ニ訴
 説ス。其言未夕訖ラス。谷所ノ戰已ニ合シ。
 砲聲地ヲ動カス。輔熙蒼皇出走ル。兵鷹司

邸ヲ圍ミ火ヲ放ツ。通武呂昭弘毅忠貞等
 カ戰シテ之ニ死ス。保臣其徒ト圍ヲ衝テ
 山崎ニ還ル。親施山崎ニ在リ我軍ノ敗ル
 ルト聞キ。營ヲ拔テ西下ス。京師ノ敗兵未
 タ之ヲ知ラス。親施ニ合シ天王山ニ據テ
 戰ハント欲シ。皆山崎ニ還ル。至レハ則チ
 親施在ラス。衆皆潰散ス。獨リ穴戸真激左馬
 助之竹内勝愛正兵衛等數人止リ敵ヲ俟ツ。敵
 來ラス。乃チ離宮八幡宮ニ下ル。保臣之ニ

逢フ真激ニ問フテ曰ク、處置如何、真激云
 フ西下再舉ヲ謀ラントスト、保臣創ヲ示
 シテ曰ク、某已ニ此ノ如シ、宜クコヽニ死
 スヘシト、其夜同志數人ト山中ニ自盡セ
 リ。忠節事跡
稿見聞誌廿三日、薩兵我大坂邸ヲ收ム。
上同廿六日、慶親山口ヲ發シ上方ロヲ巡撫
 ス。敬親
事跡幕府我江戸邸ヲ收メ、邸吏ヲ拘留
 ス。上同廿八日、慶親支藩主ト同シク定廣ニ
 三田尻ニ會議ス、晦日山口ニ還ル。上同八月

二日、是ヨリ先キ親施等京師ヨリ還ル、采
 邑ニ屏居シ罪ヲ族ツ、茲日慶親再付ヲ差
 遣シ、暴動ノ事ヲ問フ、五日親施ヲ徳山ニ
 元備ヲ長府ニ、親相ヲ清末ニ預ケ、止書
 テ親施等カ闕下暴動ノ罪ヲ謝シ、且其處
 分ヲ乞フ。上同西洋各國ノ戰艦赤間關ニ來
 寇ス、我兵力戰之ヲ禦ク、七日、定廣赴援舟
 木ニ抵ル、翌日止戰セシヲ以テ還ル。上同十
 六日、幕府慶親父子并ニ支藩主ニ謹慎ヲ

命スルノ書到ル。十七日。閩藩ニ謹慎セシム。上同九月朔日。幕府追討兵ヲ差遣ス。ト傳聞スルヲ以テ。慶親父子一死ヲ以テ皇恩ニ報スヘキ意ヲ藩内ニ告ク。上同十日。是ヨリ先キ慶親赤間關止戰定約以事ヲ以テ。井原親章及ヒ。枚重萃。德輔後孫七山縣璣。半伊藤博文。輔ヲ横濱ニ差遣セシカ。茲日英國ニニストルト會ス。十四日。和蘭ニニストル英國ハ口サ、ト會シ親ミヲ成ス。

上同廿六日。麻田翼上疏自盡ス。是ヨリ先キ輦下ノ變報到ル。人心洶々。翼清水親知。太郎ト岩國ニ馳セ。吉川經幹ニ計畫ス。歸レハ赤間關止戰ノ約既ニ成リ。議合ハス。之ニ加フルニ黨議生シテ。政府皆危疑ヲ懷ク。翼乃チ上疏シテ身ヲ以テ四境ノ敵ニ當リ。國難ニ代ラント請フ。聽サレス。遂ニ疏ヲ作り其家ニ自及セリ。忠節事十月三日。黨議ヲ以テ慶親父子款ニ赴ク。敬親諸

隊公卿ヲ護衛シ山口ヨリ豊浦ニ卻ソク。
見聞 廿三日慶親敬親ト定廣廣封ト改名
敬親 事跡

紀元二千五百五年

慶應元年二月廿八日敬親歿ヨリ美禰郡
ヲ經テ山口ニ來リ湯田ノ別業ニ居ル。上同
三月五日敬親多賀神社拜殿ヲ假ニ先靈
社遙拜所ト爲シ山口并ニ近郷居住諸士
諸隊等ヲ會シ同心協力センコトヲ誓フ。上同
九日三田尻ニ赴キ諸士諸隊等ト誓フ十

一日山口ニ還ル。上同 廿二日廣封歿ヨリ山
口ニ來リ湯田ニ居ル。上同 廿三日支藩主山
口ニ來リ會シ國內鎮撫ノ方法ヲ議ス。上同
廿四日諸隊ヲ各所ニ分屯ス。鴻城山口ニ
八幡小郡ニ御楯三田尻ニ膺懲德地ニ第
二奇兵熊毛郡岩城山ニ游擊玖珂郡高森
ニ集義舟木ニ奇兵赤間關ニ南苑萩野歿
ニ居ル。上同 廿六日敬親歿ニ還ル。上同 四月廿
五日敬親歿ヨリ山口ニ來ルコレヨリ山

口ニ居ル。上同五月藩老穴戸親基前備等吉川

經幹ニ依頼シ敬親父子ノ寛ヲ徳川慶勝

ニ哀訴ス。中島日記十五日政事方ヲ國政方ト

改称ス。中島日記十五日敬親干城隊ニ隊名ニ

負カサラントヲ戒ム。敬親事跡閏五月七日故

前田利濟孫右衛門毛利武大和直利國之助穴戸

真澄竹内勝愛山田公章亦助榎崎清義弥八郎

渡邊暢内藏太佐久間義濟佐兵衛中村清旭九郎

松島久誠剛藏カ家名ヲ復シ其ノ遺孤ニ舊

祿ヲ與フ。中島日記廿七日毛利親倫少輔三郎以下

名ヲ恭順ニ托シ異論ヲ主張セシ者ヲ責

罰ス。上同六月赤間關ノ戦功ヲ賞ス。敬親事跡是

月軍政ヲ改革ス。上同七月九日村岡伊助カ

家祿ヲ没收ス伊助去歲京師ノ役縛ニ就

ク幕府詰問ス伊助ト同シク縛セラル

者皆幕府ノ所爲ヲ罵リテ殺サル伊助獨

リ國事ヲ陳訴ス其意蓋シ敬親父子ノ罪

責ヲ減セント欲スル者ノ如シ然レ氏其

ノ説ク所私恐愛憎ニ出テ條理分明ナラ
 ス其ノ口書傳播ス敬親伊助力節ニ死ス
 ルヲ能ハス國辱ヲ貽スヲ責メテ家祿ヲ
 沒收セリ。沒收家筋帳十一日藝藩幕府ノ毛利
 元蕃吉川經幹ニ上坂ヲ命スルノ書ヲ傳
 達ス。敬親事跡十二日復軍政ヲ改革ス。上同廿七
 日卒故治郎助内名綿貫道秀力遺跡ヲ收祿ス客
 年幕府ノ我江戸郎ヲ收メ郎吏ヲ拘スル
 治郎助其ノ中ニ在リ幕吏治郎助力賤卒

ナルヲ慢リ妄ニ其ノ佩刀ヲ奪ハントス
 治郎助肯ンセス遂ニ自及シテ死シ其辱
 ヲ受ケサルヲ賞スルナリ。忠節事跡稿廿九日
 益田親施福原元佃國司親相清水親知以
 下ノ罪状書ヲ收メテ焚毀ス。敬親事跡八月朔
 日支藩主及ヒ吉川經幹山口ニ會議シ八
 日各其邑ニ就ク。上同七日穴戸親基安藝ニ
 赴キ同僚連署ノ書ヲ以テ幕府ニ毛利元
 蕃吉川經幹ノ俄ニ東上スヘカラサルノ

國情ヲ哀訴シ諸隊モ使ヲ馳セ難願書ヲ
 依托ス。元蕃經幹ハ病ヲ以テ東上ヲ辭ス。
 〔上同〕九月三日。幕府藝藩ヲ以テ元蕃經幹ノ
 東上スヘカフサレハ。毛利元周。毛利元統
 及ヒ宗藩老臣ニ九月廿七日ヲ期トシ。大
 坂ニ出ツヘキヲ命ス。九日。使ヲ藝藩ニ遣
 ハシ。元周元統モ病ニ卧シ。其命ニ應シ東
 上スルヲ能ハサルヲ謝ス。〔上同〕廿日。更ニ軍
 制ヲ改革ス。〔上同〕十月七日。藝使來リ幕府ノ

歎願書ヲ却下スルヲ報ス。是ニ於テ井原
 親章。穴戶璣ヲ東上セシム。璣ハ安田氏出
 テ山縣禎七半ノ後ヲ承ク。是時穴戶親基藩
 老ノ上首タルヲ以テ東上セントシテ病
 アリ。因テ璣カ器局アルヲ以テ己カ養子
 トシ。穴戶氏ヲ冒シテ己ニ代ヘ。親章ニ副
 タラシメント乞フ。敬親之ヲ久シテ長命
 アリ。通称ヲ備後介ト賜フ。親章カ班ヲ進
 メテ藩老鈴尾親徳五郎本氏福原當時鈴尾
ト郎本氏福原當時鈴尾

リカ次席トス。同上十五日是ヨリ先キ親章
 璣安藝ニ至ル。親章敬親ニ自ラ咨詢スル
 所アリト稱シテ引還ル。尋テ璣モ亦還ル。
同上十一月四日。藝藩使ヲ遣ハシ幕府ノ毛
 利父子伏罪疑惑ノ件アルヲ以テ。大目付
 永井主水正。目付戸川銚三郎。松野孫八郎
 ヲ安藝ニ下シ。支藩及ヒ宗藩家老ノ内。且
 奇兵隊中長官三四名。十一月ヲ限リ廣島
 ニ出ツヘキノ命ヲ傳フルヲ以テ。宍戸璣

紀元五百五十年

ヲ差遣ス。支藩主モ家老ヲ差遣セリ。同上 監
 國士民國是ヲ合議シ。議決書三十六萬本
 ヲ印刷ス。同上。及防長士民合議書
 二年正月廿五日。赤根武人ヲ出合川原ニ
 戮ス。武人ハ浦元襄カ家人ナリ。材武ヲ以
 テ奇兵隊ニ長トナル。戦功ヲ積テ士籍ニ
 列ス。元治元年黨議起リ。諸隊ニ解散ヲ命
 スルニ當リ。諸隊ノ長一人ヲ殺シ。召ス。奇
 兵諸隊ノ首タルヲ以テ。武人殺ニ抵リ。俗

論黨ノ勢熾ヲ視テ抗スヘカラストシ志
操頓ニ變ス既ニシテ赤間關ニ還リ言フ
所多ク曖昧模糊時ニ谷春風筑前ヨリ還
リ隊中ニ在リ武人ヲ罵リ殆ト相闘フニ
至ル隊兵モ亦武人ヲ刺サント議ス武人
衆ニ容ラレサルヲ知り春風カ兵ヲ舉ル
ノ翌日隊ヲ脱シテ潛匿ス俗論黨消滅ス
ルニ及ヒテ敬親武人ヲ舊主ニ還附ス武
人ヲ慙チテ上國ニ走リ遂ニ幕府ノ使

用スル所トナリテ歸國シ離間ノ策ヲ爲
ス事露レテ縛ニ就キコトニ至テ斬ニ處
ス見聞誌二月廿五日茂根藩ノ使者岩國新
港ニ來リ吉川經幹ニ面シ藩主ノ密旨ヲ
述ント請フ經幹病ニ托シ今田鞞負等ニ
命シテ應接セシム使者云フ幕府ノ意敬
親父子ヲ廢シ封土十萬石ヲ削リテ兵ヲ
收メントス主人舊誼アルヲ以テ敢テ告
ク之ヲ肯スルニ盡カアランコトヲ希望ス

ト、廿六日、經幹謝絶ス。〔中島日記〕三月朔日、老中
 小笠原長行〔壹岐守〕安藝ニ下リ、藝藩ヲ以テ
 支藩主并ニ吉川經幹及ヒ穴戸親基、毛利
 元雄〔筑前〕ヲ廣島ニ召ス。〔敬親事跡〕廿四日、使ヲ藝
 藩ニ遣ハシ、既ニ名代穴戸璣ヲ出スヲ以
 テ其他ヲ辭ス。〔同上〕四月二日、小笠原長行マ
 タ宗藩ノ名代二人并ニ支藩主及ヒ吉川
 經幹ニ出藝ヲ令ス。次テ穴戸璣及ヒ支藩
 并ニ吉川氏名代ヲ藝ニ出ス。〔同上〕四日、第二

奇兵隊〔熊毛郡岩城山ニ化戍スル以來南奇隊ト畧稱ス〕士官立石
 孫一郎引頭兵吉、幕兵ノ境ヲ厯シ日月ヲ
 經ルノ久シキ、或ハ士氣ノ消耗センヲ憂
 ヒ、黨與ヲ結ヒ兵ヲ上國ニ舉ケントス。書
 記楠崎義綱〔隆藏〕其不可ヲ極論ス。孫一郎等
 義綱ヲ戕殺シ、器械彈藥ヲ奪フテ脱走ス。
 総督清水親春〔美作〕兵ヲ出シ之ヲ追フ。及ハ
 ス。是ニ於テ藩老書ヲ隣藩ニ貽リテ之ヲ
 報シ、且到ル處之ヲ捕縛セントテ依頼ス。

同上及忠節事 敬親幕兵ノ日ニ加ハルヲ

以テ毛利元純ニ石見口総軍指揮ヲ托シ

毛利元潔出ニ小郡宰判毛利元教登能ニ舟

木宰判毛利親詮賀伊ニ上關宰判毛利

進豐之ニ兩大津宰判宍戸親基ニ小瀬川口

御神本親祥主殿本氏益田當時御神ニ佛

坂口毛利宣次ニ萩鈴尾親徳ニ小郡

口益田親父孫ニ山代徳地宰判ノ指揮ヲ

命ス中島日記ニ是ヨリ先キ立石孫一郎

等備中倉敷ヲ襲フテ之ヲ略シ淺尾ニ進

ム松山岡山二藩及ヒ幕兵藝ヨリ合撃ス

孫一郎等敗レ還ル清水親春カ家人之ヲ

要撃シテ孫一郎兵吉ヲ斫殺ス黨與皆縛

ニ就ク是日其首謀廿七人ヲ死刑ニ處ス

孫一郎ハ石見ノ人ナリ膽力アリ武ヲ好

ム其遠祖某小早川隆景ニ仕ヘ軍功アリ

感状ヲ賜フ孫一郎夙ニ毛利氏ノ舊誼ニ

報ユルノ思アリ攘夷ノ事起ルニ及ヒテ

山口縣史

卷之三

來リ奇兵隊ニ入ル。第二奇兵隊ヲ編スル
 與テカアリ。コヽニ至テ之ニ及フ。遺骸ヲ
 收ムルニ當テ。一書冊ヲ其懷中ニ獲タリ。
 浮沈日記ト題ス。首ニ兵ヲ舉ルノ大旨ヲ
 記セリ。爲ス所既ニ謬レリトイヘ氏之ヲ
 讀ム者其ノ志ヲ憫ム。見聞誌浮沈日記五月朔日。
 小笠原長行穴戸璣ヲ國泰寺ニ召シ。幕命
 ヲ傳ントス。璣病ト稱シテ往カス。副使小
 田村希哲素太郎後稱取ヲ召ス。希哲副使

タルヲ以テ辭ス。乃チ支藩及ヒ吉川ノ名
 代ヲ召シ。封土十萬石ヲ削リ。敬親ハ蟄居。
 廣封ハ永蟄居。興丸ニ家督ヲ賜ヒ。益田親
 施。福原元佃。國司親相ノ家名永世斷絶ノ
 命ヲ傳フ。二日。支藩吉川ノ名代連署ノ歎
 願書ヲ出ス。三日。長行之ヲ却下シ。四日。歸
 邑ヲ命ス。五日。更ニ歎願書ヲ出シテ高森
 二還ル。敬親事跡九日。長行急ニ璣希哲ヲ國泰
 寺ニ召ス。二人未夕往カス。兵已ニ其逆旅

ヲ圍ミ。就テ二人ヲ擒シ。之ヲ藝藩ニ預ク。
上同 十六日。是ヨリ先キ支藩ノ名代歸國シ。
 尋テ璣等カ囚ニ就クノ報至リ。且藝藩幕
 府ノ防長ノ依頼ヲ受ルヲ禁スルヲ告ク。
 是ニ於テ敬親幕府ノ處分ヲ藩内ニ徇フ。
 士民憤恚。戰守ニ決心シ。議決書ヲ上ル。藩
 老副書ヲ作り。支藩ニ托シ。士民ノ情實如
 此ヲ以。寛大ノ處分ヲ希望スルノ了ヲ幕
 府ニ請願ス。是日支藩ノ使又江波ニ抵リ。

之ヲ藝藩ニ托ス。長行報セス。嘗テ命ヲ傳
 ル所ノ請書ヲ催促ス。是ニ於テ士民書ヲ
 藝藩ニ貽ル。其畧曰ク。朝旨寛大ニ出。兩國
 安穩ノ命下ルヲ聞ク。而ルヲ幕府曲ケテ
 削封等ノ議ヲ起シ。數回ノ歎願ヲ聽カス。
 偏ニ威カヲ以テ我ヲ壓シ。故ナク銃隊ヲ
 縱テ寡君ノ名代ヲ拘留ス。幕府ノ曲タル
 ヤ顯然著明。既ニ銃隊ヲ我ニ加フ。我之ニ
 應スルニ兵馬ヲ以テセサルヲ得サルハ

臣子ノ分ナリ。就テハ國境ヲ鎖シテ守禦スルノ念ナリトイヘ氏進退豫定ノ難シ。或ハ貴境ニ進入スルモ知ルヘカラス。若シ果シテ進入スルモ掠略亂暴ハ嚴禁スル所ナリ。幸ニ貴境ノ人民其堵ニ安セン。予ヲ希望ス。接幕紀事六月。汽船一隻ヲ購求ス。丙寅丸ト名ツク。中島日記見聞談七日。幕府ノ汽船一隻熊毛郡室津港ニ來リ。民屋ヲ砲シ。直ニ大島郡ニ駛走シテ。安下莊ヲ砲撃ス。

八日。味爽汽船二隻和船十隻ヲ率井。油宇港ニ進入シテ砲撃シ。百五十許人上陸シテ地理ヲ檢シ。去テ安下莊ニ駛走シ。海岸ヲ砲撃シテ退帆ス。日晡又汽船四隻和船十四隻ヲ率井。久賀ヲ砲撃シ。前島ニ碇泊ス。九日。汽船二隻前島ヨリ來リ。久賀ヲ砲撃シテ藝海ニ退帆ス。見聞談幕府嘗テ抱留スル所ノ藩邸ノ吏ヲ放還ス。本日山口ニ還ル。敬親事跡十日。汽船二隻復室津ヲ砲シ。去

テ前島ニ錨ス。見聞誌十一日。汽船二隻和船
 五六十隻許ヲ率井。安下莊ヲ襲ヒ。汽船三
 隻。帆船一隻。和船三十餘隻ヲ率井。久賀ヲ
 襲フ。久賀ヲ襲フ者幕兵ニシテ。安下ヲ襲
 フ者ハ松山兵ナリ。安下莊土着兵之ヲ拒
 ク。赤川藏人カ從者河村文菴年七十二陣
 ニ臨ミ。力闘シテ死ス。土着兵支ル能ハス。
 源明峠ニ退ソク。敵兵村落ヲ火ク。土着兵
 源明ヨリ久賀兵ニ合セント碓峠ニ抵ル。

時ニ飯田彌七郎カ久賀ニ赴援スルニ會
 フ。同シク久賀畑口ニ出ツ。既ニ久賀土着
 兵幕兵ト戦ヒ。其ノ敗ル所トナリテ。煙焰
 ノ村落ニ充滿スルヲ見ル。飯田其ノ及ハ
 サルヲ以テ。屋代村ニ退ソク。村上河内一
 手安下莊ノ急ヲ聞キ。屋代ヨリ日前ニ至
 ル。是モ亦戦ヒ。既ニ止ミ。煙塵稍消滅シ。敵
 兵ノ海邊ニ偃卧盤礴スルヲ見ル。急ニ二
 小隊ヲ馳セテ之ヲ衝ク。敵兵狼狽船ニ遁

ル我後援ナキヲ以テ屋代ニ退ソク。是夜
 代官齋藤市郎兵衛軍監兼參謀石川知澄
 助幹之ト合議シ。土著兵ヲ班メ。小松ヨリ内
 地ニ逃ル。是ニ於テ全島敵手ニ陷レリ。島中
日記忠節 十二日。谷春風丙寅艦ニ乗シ赤
 事跡稿 間關ヨリ大島ニ赴援ス。大島既ニ陷レル
 ヲ以テ小松洋ニ錨シ。夜ヲ疾テ父賀港ニ
 抵リ敵艦ヲ砲ス。敵艦狼狽射スル能ハ
 ス。春風亦敢テ戰ハス。小松港ニ回ル。是時

ニ及ヒテ漸ク敵艦ノ砲聲ヲ聞ク。春風富
 士艦ノ本日伊豫ニ抵リシヲ以テ。其ノ回
 リ來テ我カ退路ヲ斷ン。了ヲ恐レ。再ヒ父
 賀ニ抵リ。敵艦ヲ去ル一二町許ノ線路ヲ
 取テ敵艦ヲ砲シ。藝海ヨリ廻リテ赤間關
 ニ還ル。敵兵以テ薩藩ノ隱ニ毛利氏ニ赴
 援スル所ナリト疑フト云フ。同上 十四日。是
 ヲリ先キ大島ノ警報荐リニ内地ニ至ル。
 是ニ於テ關國幕府ノ暴ヲ憤リ。坐シテ其

ノ茶毒ヲ受リヘカラス。當路ノ茅塞ヲ剪
 除シ以テ闕下ニ趨リ。冤罪ヲ申明スヘシ
 ト決議シ。一軍ヲ藝州口ニ。一軍ヲ石州口
 ニ。一軍ヲ九州口ニ。一軍ヲ大島ニ出タス。
 是日。大島ノ援軍夜ヲ疾テ笠佐島ニ航シ。
 軍ヲ分テテ第二奇兵隊。浩武隊。清水親春
 カ一。小隊。大島土兵一。小隊。合セテ八。小隊
 ハ屋代ニ向ヒ。毛利熙頼（隠カ兵）及ヒ上關
 大島。小隊等ノ七。小隊。ハ沖浦ニ向ヒ。浦滋

之助。一。小隊。村上龜之助。五。小隊。并ニ砲隊。
 村上河内。村上太左衛門。飯田彌七郎。各一
 小隊。平岡甲太郎。一。小隊。半ハ三浦掠野ニ
 向フ。十五日。昧爽。浩武隊先ツ。小松開作村
 ニ濟リ。松山兵。松本定右衛門。岩岡己之助
 カ民屋ニ舍スルヲ擒シ。松本ヲ斬リ。軍ニ
 徇フ。諸兵。屋代村。西蓮寺ニ會シ。四出敵ヲ
 擊ツ。第二奇兵隊。清水兵。大島。小隊。日前村
 普門寺ニ在ル敵ヲ襲フ。敵己ニ去ル。我兵

寺ニ入憇ス。既ニシテ敵兵百餘人久賀ヨ
 リ來リ寺前ヲ過ク。我兵之ヲ銳ス。敵蒼黃
 僅ニ拒戰ス。我砲隊白砲ヲ發ス。敵支ルヲ
 能ハス。安下莊ニ遁走ス。少シク尾撃シテ
 軍ヲ屋代ニ班ス。三浦口ハ浦兵三浦ノ鬼
 峠ヲ經テ文珠山ヲ横キリ。江尻越ニ進ミ。
 村上河内兵ト同シク久賀畑ニ向フ。是時
 村上龜之助一手碇峠ヨリ國木臺ニ進ミ
 敵ト接ス。急ヲ浦村上ニ報ス。是ニ於テ村

上河内一小隊之ヲ援シ。浦ハ江尻越ヨリ
 兵ヲ返シテ村上兵ノ左ニ出テ應援ス。敵
 兵丸山ヨリ庄地ノ一井手^{イナ}ニ在リ。松樹ヲ
 楯トシ更ルカハル兵ヲ出シテ射撃ス。我
 兵峰尾ニ在リ。同シク樹幹ヲ楯トシ答射
 ス。浦兵芥川正亮等ハ久賀山西ヲ廻リ敵側
 ヲ襲フ。敵ノ二小队畠山ニ登リ。我背後ヲ
 襲ハントス。村上河内カ兵之ヲ馳セテ撃
 破ス。飯田彌七郎ハ掠野山天神山ニ出テ

敵ノ海濱ニ化スルヲ衝シトスルニ平原
 峠ノ向山ヨリ國木臺ニ赴ク敵兵ノ連絡
 絶サルヲ見テ國木臺ノ戦ノ劇ナルヲ察
 シ國木臺ニ抵ル平岡甲太郎村上太左衛
 門モ亦合軍ス日晡スルニ及ビテ敵ノ陣
 脚動ク我軍呐喊奮撃ス山上ニ戦ヲ見ル
 土人等聲ヲ合セ勢ヲ助ク山岳爲メニ震
 フ敵遂ニ久賀ニ走ル我勞ルヲ以テ追
 ハス浦ハ文珠山ニ村上龜之助ハ碓峠ニ

村上太左衛門平岡飯田ハ垢水ニ陣シ村
 上河内ハ屋代ニ還ル是夜敵普門寺ヲ火
 ク十六日久賀ノ敵ヲ攻撃セントシ第二
 奇兵隊浩武隊毛利兵上關土兵及二砲隊
 垢水峠ニ出浦兩村上平岡飯田等國木臺
 ニ向ヒ本郡土兵二小隊ヲシテ源明口ニ
 備ヘ同土兵二小隊ヲシテ笛吹峠ヲ守ラ
 シメ清水一手源明峠ヨリ普門寺ニ赴ク
 是時安下莊ノ敵清水笛吹源明ノ三路ヲ

以進入スルヲ報ス。是ニ於テ第二奇兵浩
 武兩隊各折半シテ其ノ一及ヒ毛利兵上
 關兵ト之ヲ逆ヘ浩武ノ其半隊ハ清水峠
 ノ南側ニ陣シ。第二奇兵ノ其半隊ハ山上
 ニ陣ス。午時始メテ戰ヲ交ユ。已ニシテ天
 色昧曠。小雨俄ニ至リ。雲霧山上ヲ蔽フ。敵
 仰テ我ノ孰レニ在ルヲ辨スル能ハス。我
 兵下擊ス。敵兵頗ル沮ム。既ニシテ雲霧收
 マリ。土人ノ來リ山上ニ戰ヲ見ル者ノ聲

至スルヲ望ミテ潰走ス。我軍吶喊尾擊ノ
 勢ヲ張ル。敵兵先ヲ爭フテ走リ。船ニ乘シ
 テ遁ル。茲日嘗テ生擒スル所ノ岩岡已之
 助ヲ屋代ニ斬ル。上同石州口ノ兵松平武聰
左近ノ領内ニ進撃ス。中島十七日。第二奇
將監兵隊浩武隊安下莊ニ抵リ。敵ノ殘徒ヲ搜
 索シ。尋テ又賀ヲ攻メント穴戸毛利等ノ
 諸兵ト路ヲ分チテ進ム。是時敵又賀村ノ
 庄地ヲ火ク。村上河内。村上太左衛門及ヒ

穴戸兵之ニ馳セ。攻撃數刻。遂ニ敵ヲ却ッ
 シ。浦兵二小隊及ヒ砲隊三本松ヨリ下リ
 白砲ヲ發シ。兵ヲ分チテ一小隊及ヒ砲隊
 ハ畠山ニ進ミ。一小隊ハ久福寺ニ出ツ。敵
 始メハ山下ニ來戰セシカ。我軍ノ悉ク至
 ルニ及ヒテ。海邊ニ退ソキ。代官邸及ヒ吉
 田屋ト稱スル民舎ニ據リ拒戰ス。軍艦港
 外ヨリ遠射シ。之カ勢ヲ助ク。日既ニ暮ン
 トス。我軍奮撃。遂ニ敵營ニ薄ル。敵支ルコ

能ハス。自ラ屋舎ヲ火テ。船ニ走ル。我船隻
 ナキヲ以テ。退フコト能ハス。番兵ヲ置テ全
 軍屋代ニ凱旋ス。十八日。我軍久賀ニ出ツ。
 船ナキヲ以テ。進撃セス。彼モ亦來リ敵セ
 ス。終日海陸相睥睨シテ止ム。十九日。汽船
 三隻。帆船一隻。和船十五隻ヲ率井。久賀港
 ニ入り。揚陸シテ。民舎ニ亂入シ。菜穀器財
 ヲ掠略シ。鶏ヲ盜ミ。牛ヲ殺シ。終ニ土人數
 人ヲ屋中ニ縛シ。火ヲ放テ。退帆ス。我兵警

報ヲ聞テ之ニ馳ストイヘ氏及ハス是ニ
 至テ全島我ニ復セリ茲役ヤ我ノ死スル
 者纔ニ七人傷ツク者廿五人ノミ而テ敵
 ヲ殪ス其數ヲ知ラス我ニ獲ル所ノ首級
 十四ニシテ廿七人ヲ生擒ス中ニ就テ士
 籍ニ繫ル者十一人ヲ斬テ土人ノ憤懣ヲ
 慰シ其餘ハ各人ニ路費金壹兩ヲ與テ松
 山ニ送還セリ同上及忠節事跡稿是日龜尾川口守
 衛兵藝地ニ進入ス中日島記廿二日井原親章

カ祿ヲ削リ蟄居セシム是ヨリ先キ親章
 ノ安藝ヨリ還ル穴戸璣ニ熟議スルニア
 ラス還ルノ後病ト稱シテ復藝ニ赴クラ
 辭スルヲ以テナリ親章性銳果嚴譴セラ
 レテ幽居鬱々遂ニ疽舌ニ發シ十一月十
 九日死ス一五十一歳後敬親親章前功ヲ録シ
 削奪スル所ヲ其義子ニ復セリ忠節事跡稿廿
 七日是ヨリ先キ使ヲ津和野藩ニ遣ハシ
 幕府差遣スル所ノ軍監長谷川久三郎須

藤鑑三郎一行ヲ迎フ。本日山口ニ來着ス。
 之ヲ七房村ノ寺院ニ置ク。尋テ宮野村法
 明院ニ移ス。後和議成テ大坂ニ送還セリ。
 敬親敬親七月三日、穴戸璣、小田村希哲、安藝ヨ
 リ還ル。敬親璣カ勞ヲ賞シ、新地千石ヲ與
 へ、寄組ニ班シテ、穴戸親基カ末家トシ、老
 中ヲ命ス。是ヨリ先キ我藝州口守衛兵東
 軍ヲ小瀬川ニ敗リ、事六月十四進ンテ大
 竹小方、玖波ノ三村ヲ取り、石州口ノ兵モ

益田ヲ取ル。事六月十六是時小笠原長行
 小倉ニ赴キシ。事六月ヲ以テ、老中松平
 宗秀伯耆守之ニ代リテ、廣島ニ在リ、諸路ノ
 敗聞交臻ルヲ以テ、謀慮スル所アリテ、璣
 等カ囚ヲ釋シテ、放還スルト云フ。同上十八
 日、石見濱田城主松平武聰自ラ城ヲ焚テ
 遁ル。東軍悉ク安藝ニ引還ル。益田ニ滞在
 スル我軍進ンテ城ヲ取り、火ヲ救ヒ、城内
 ノ積蓄ヲ困窮ノ土人ニ分給ス。土人悦服

ス武聰カ領内及ヒ幕領一戦セスシテ皆
 我ニ屬セリ。同上廿九日松山藩金百五十兩
 ヲ大島郡安下莊ノ莊屋ニ托シ兵燹ニ罹
 ル民戸ニ配付ス村民大ニ怒リ其金ヲ松
 山ニ送返ス。中島日記八月干城隊募金シテ汽
 船一隻ヲ購求ス第二丙寅丸ト名ツク。見
誌九日玖波氏成ノ兵ヲ小方ニ班メ支道
 ノ兵ヲ國內ニ收ム是ヨリ先キ藝藩我兵
 ノ東軍ヲ追フテ或ハ其城下ニ逼ル丁ア

ラシテ懼レ若シ復幕府ノ大舉シテ來ル
 藝藩ニテ之ヲ支フヘキヲ以テ本道ハ玖
 波小方ヲ限リ其他支道ノ兵ヲ國內ニ收
 メシメテ請フ我軍玖波ノ地タル海軍襲
 來ノ虞アルヲ以テ其請ヲ幸トシ一戦大
 ニ敵膽ヲ奪フテ後兵ヲ退ケントス七日
 大舉シテ幕軍ヲ衝キ玖波小松原峠口明
 石村等ニ戦テ之ヲ敗ル是ニ至テ藝藩老
 仙石志摩ニ白砂村ニ會シ爾後ヲ約束シ

テ即チ兵ヲ收ムル丁其請ノ如クス上同九月二日是ヨリ先キ將軍家茂大坂ノ行營ニ薨ス朝議將軍ノ喪ニ托シテ追討ノ師ヲ輟メ德川慶喜ニ詔シ宗家ヲ入嗣セシム慶喜勝義邦安房カ嘗テ征討ヲ諫メ損斥セウレテ幽居スルヲ起シ藝ニ西下セシメ我ニ諭シ兵ヲ解カシム茲日廣澤真臣兵助初波多野金吾等嚴島大願寺ニ之ト接ス義邦慶喜ノ旨ヲ傳フ真臣等肯ンセス論辨

スル丁數回義邦曰ク某歸坂スルノ後師ヲ班スルノ丁アラハ之ニ乘スル丁ナカラシテ希望スト真臣等固ヨリ義邦ノ為人ヲ重ンシ且ツ其ノ禮ヲ失ハサルヲ以テ之ヲ諾ス接幕紀事十二日總督德川茂承藝藩ヲシテ命令書ヲ我ニ傳フ其書中暫時解兵又隣領侵掠地等ノ言アリ我其ノ非ヲ辨シテ領受セス敬親廿六日幕府藝地滞在ノ師ヲ班ス中島十一月三日敬親小

郡宰判秋穂村ニ如キ干城隊購未ノ汽船ヲ見ル翌日還ル敬親事跡十五日松山藩郡奉行奥平三左衛門代官矢島大之進等大島ニ來リ暴動ノ罪ヲ謝ス中島日記十二月英國船佐波郡三田尻ニ來リ泊シ敬親父子ニ面シ好ヲ修セン了ヲ乞フ敬親父子及ヒ吉川經幹三田尻ニ抵リ十九日英船將ヲ貞永某カ宅ニ招飲ス三十日英船將敬親父子及ヒ經幹ヲ其艦ニ迎へ饗ス同上

紀元千五百廿五年

慶應三年正月五日天皇登遐事客年十二月二十九日ニアノ訃抵ル敬親國內ニ過密ヲ令スル了例ノ如クシ而シテ自己十三日ノ忌期月ノ服ヲ受ク敬親事跡二月八日藝藩使ヲ遣ハシ國哀ヲ以テ解兵ノ幕旨ヲ傳フ同上廿二日南園義昌ノ二隊ヲ合併シテ振武隊ト改メ御楯鴻城ノ二隊ヲ合併シテ整武隊ト改メ八幡集義ノ二隊ヲ合併シテ銳武隊ト改ム中島日記松山藩再々使ヲ遣ハシ

暴動ノ罪ヲ謝ス。三月十九日復又使ヲ遣
 ハス。上同十月敬親干城中隊ヲ編ス。藩士ノ
 請求スルヲ以テナリ。上同廿三日薩藩小松
 帶刀西郷吉之助藩主ノ旨ヲ奉シテ山口
 ニ來ル。敬親事跡是月天皇内勅書ヲ敬親ニ賜
 フ。上同十一月十一日山田頼毅字右衛門没ス。十五
五歳頼毅號ハ星山。又治心氣齋原欽六世ノ
 孫ナリ。安政元年相模防堵總奉行手元役
 トナル。翌年期滿テ歸リ異船應接掛タリ。

三年徳地代官トナリ。後奥阿武ニ轉ス。文
 久元年英國船赤間關ニ來ル。山田公章ト
 命ヲ奉シ往テ事ヲ董ス。二年政務方ニ擢
 ラレ。學習院用掛ヲ以テ上京。尊王ノ事ヲ
 執掌ス。三年復奥阿武代官トナル。慶應ノ
 初表番頭格ニ班シ。兵學校教授トナリ。尋
 テ政務方トナリ。教授ヲ兼ヌ。又撫育方用
 掛郡奉行等ヲ兼ヌ。三年政務首坐ニ班ス。
 頼毅固辭シ。木戸孝允ヲ推ス。許サス。又民

政方改正詮議用掛ヲ魚ネコハニ至テ没
 ス。賴毅人ト爲リ強毅謙遜ニシテ質素ヲ
 尚フ。平生沈黙無能者ノ如シ。事ニ觸レテ
 其胸臆ヲ披ケハ。議論識見廻ニ人ノ意表
 ニ出ツ。初メ山鹿氏ノ兵書ニ尸祝シ。後西
 洋法ニ渉ル。中島嘉勝名左衛門大村永敏益二
 皆其ノ薦ムル所ナリ。吉田矩方幼ニシテ
 賴毅ニ師事ス。賴毅矩方カ爲ス有ルノ才
 ヲ知リ。カヲ盡シテ之ヲ獎勵ス。嘗テ江戸

ヨリ歸ル。矩方ニ謂フテ曰ク。世變將ニ近
 キニ在ラントス。屑々稿簡ヲ執リ空言ヲ
 守ルハ。宇内ノ形勢ヲ研究スルノ急務タ
 ルニ若サルナリ。是ニ於テ矩方初メテ西
 洋籍ヲ讀ム。其ノ終身外寇ヲ以テ憂トス
 ル者。蓋シ此ニ基セリ。忠節事十六日。津和
 野藩主龜井茲監隱岐守山口ニ來リ好ヲ修
 ス。廿二日還ル。敬親事十七日。薩摩藩主島津
 大修理入朝セントシ。敬親ニ議スル所

アリテ三田尻ニ來泊ス。會敬親夜ニ卧ス。
 廣封代リ三田尻ニ赴キ、十八日、
 シ翌日還ル。上同十八日、是ヨリ先キ八月廿
 九日藝藩使ヲ遣ハシ、幕府ノ我支藩主并
 ニ吉川經幹及ヒ家老一人ニ東上ヲ命ス
 ルヲ傳フ。敬親幕府ノ譎詐信スヘカラサ
 ルヲ以テ家老ヲシテ之ニ代ヘンコヲ請
 ヒ、茲日毛利元雄カ男親信内ニ陳情書ヲ
 齎ラシ東上セシム。毛利元蕃ノ男平六郎

及ヒ吉川家宰宮庄主水同シク東上ス。尋
 テ敬親堅田親正和大ヲ総督、叔重華ヲ参謀
 トシ、二大隊一砲隊ヲ備後ニ出シ、東上使
 節ノ不虞ニ備フ。上同廿四日、上國人雲上明
 覽ヲ贈ルアリ。始メテ今上天皇ノ御諱ヲ
 知リ、國內ニ令シテ書中睦字ヲ避ケ、其ノ
 避クヘカラスルニ當テハ省畫セシム。見
誌中島十二月十三日、是ヨリ先キ毛利親
 信攝津西宮ニ抵リ、安藝藩主淺野茂長ノ

男茂勲ニ依リ陳情書ヲ上ル。二日茂勲之ヲ奉呈ス。十日天皇旨ヲ下シ敬親父子毛利元周毛利元蕃毛利元純ノ官位ヲ復シ入京ヲ許ス。本日恩命山口ニ到ル。明治史要天勅

紀元千五百廿八年

今上天皇明治元年正月三日廣澤真臣井上

馨聞參與ト爲ル。是ヨリ藩士參與ト爲ル

者相踵ク。明治史要二十日。是ヨリ先キ花

山院家理前左中將内旨ヲ受ケ西海道ヲ鎮撫

スト稱シ熊毛郡室積ニ來ル其黨鹵掠ヲ事トス。本日敬親吏ヲ差遣シ家理ヲ普現寺ニ拘シ隨從ノ暴徒ヲ捕縛ス。後之ヲ京師ニ送致ス。同上廿一日敬親豊前石見ノ地ヲ奉還セン。丁ヲ乞フ許サレス。姑ク之ヲ管理スヘキ命アリ。明治史要天勅一件廿二日廣封上洛。山口ヲ發ス。敬親事跡廿六日敬親萩ニ赴ク。同上二月八日朝廷國役金高百石ニ金三分ヲ命ス。同上十一日敬親萩ヨリ還ル。同上三

月五日、是ヨリ先キ敬親吉川經幹ヲ末家ニ列セン。丁ヲ願フコトニ至テ許サル。同上

四月九日、廣封議定ト爲ル。明治史要 十九日、玖珂郡中津村火アリ。百戸餘、朝政復古記、願出一件

閏四月十八日、廣封京師ヨリ至ル。願出一件 十九日、吉川經幹駿河守ニ任シ、從五位下ニ叙ス。一天件勅 五月、敬親更ニ山口ニ居住セン。丁ヲ願フ。朝政復古記、願出一件、敬親事跡 十一日、敬親上洛。山口ヲ發ス。敬親事跡 六月、吉川經幹城主格

ニ列ス。一天件勅 七月六日、朝廷我及ヒ薩土等十一藩ノ老臣ヲ召シ、藩主ヲ輔翼スルノ功ヲ賞シ、物ヲ賜フ。明治史要、敬親事跡 八月廿七日、天皇位ニ紫宸殿ニ即ク、翌日敬親及ヒ島津忠義ニ命シ、京師ニ在テ機務ニ參セシム。同上 九月十八日、敬親左近衛權中將ヲ兼ネ、從三位ニ叙ス。敬親事跡 十月五日、敬親京師ヨリ至ル。同上 是月、朝旨ヲ以テ藩治職制ヲ定メ、執政參政公議人及ヒ家知事ヲ置ク。

明治史要 藩治職制書 十二月十四日 敬親社官ニ大

長節ヲ以テ皇國ノ大道聖上ノ厚德ヲ講

説スヘキヲ命ス 敬親事跡 十八日 吉川經幹老

ス 男經健襲ク 願出一件

二年正月 朝旨諸道ノ關塞ヲ廢ス 乃チ鯖

山揚井田等諸關ヲ壞ツ 明治史要 見聞誌 二月

二日 贈從三位毛利元就ニ豐榮神社ノ號

ヲ賜フ 明治史要 敬親事跡 九日 天使萬里小路博房

三田尻ニ下向ス 廣封之ニ隨從シテ至ル

紀元二千五百九年

十一日 天使山口ニ入り 敬親ノ積年王事

ニ勤勞セシヲ慰賞シ 手詔ヲ賜ヒ 敬親ヲ

召シ大政ヲ贊翼セシム 十五日 天使山口

ヲ發ス 同上及天勅 一件願出扣 廿三日 敬親上洛 山口

ヲ發ス 敬親事跡 三月十五日 敬親京師ヨリ至

ル 同上及願届扣 四月十一日 廣封上洛ス

月 敬親御堀直方ヲ西洋ニ遣ハス 九月反

命ス 志節事 跡稿 六月 朔日 敬親山口及ヒ萩學

校ニ七十歳以上ノ者ヲ召シテ之ヲ饗シ

且ツ物ヲ賜フ。敬親二日敬親權大納言ニ
 任シ。從二位ニ叙シ。廣封參議ニ任シ。從三
 位ニ叙ス。勲功ヲ賞シテ永世高十萬石ヲ
 賜フ。上同四日。敬親老ス。廣封襲ク。上同十四日。
 朝旨ヲ以テ汽船風帆船ノ隻數及ヒ其ノ
 旗章等ヲ錄上ス。御届十七日。是ヨリ先キ
 敬親薩摩藩主島津忠義ト議シ。封土ヲ納
 レ。政權ヲシテ一ニ歸セシメントス。肥前
 藩主鍋島直大。土佐藩主山内豐範モ亦其

議ニ應スルヲ以テ。正月二十日連署上表
 シテ。封土人民ヲ奉還センコトヲ請フ。コ、
 ニ至テ勅シテ之ヲ聽シ。藩主ヲ知藩事ト
 爲シ。大名ノ稱ヲ廢シ。華族トス。明治史要
 廿五日。知藩事家祿ノ制ヲ定メ。舊封地現
 臣隸ヲ以テ悉ク士族ト爲シ。一門以下平
 士族以下ノ祿制ハ適宜ニ改正シ。重職ノ
 進退ハ之ヲ奏請セシメ。乃チ租税金額。五
 均歲費。士卒兵隊俸祿ノ數。戶籍地圖等。及

七 更草ノ條件本年十月ヲ限リ録上セシ
 八 明治十月上件ヲ録上スルノ如シ
 從來支配地總高并現米銀高

周防國

一 高三拾六萬九千四百拾壹石

外ニ新田打出

一 高六拾壹萬八千五百九拾三石餘

合高九拾八萬八千四百石餘

内

貳拾七萬四千三百三拾八石餘

但支藩へ配地新田打出共

残り高七拾壹萬三千六百六拾六石餘

内

周防國

一 高貳拾萬貳千七百八十七石餘

外ニ新田打出

高三拾三萬四千貳百五拾四石餘

合高五拾三萬七千四拾壹石餘

内

八萬千貳百貳拾壹石餘

但玖珂郡大島郡之内支藩岩國へ

配地新田打出共

六萬貳千九百三拾七石餘

但都濃郡熊毛郡之内支藩徳山へ

同斷

残り

高三拾九萬貳千八百八拾三石餘

元治元年甲子年ヨリ
元治元年戊辰年迄 五箇年平均

正租納

一米拾壹萬千四百貳石

一錢六萬五千貳百貳拾四貫文

但通用藩札銀ニシテ六百五拾貳貫

一萬貳百四拾目ヲ以尤壹匁ニ付百文ニ

當ル

雜稅納

一米貳萬貳千八百七拾五石

一銀四百三拾八貫四拾目。

但通用藩札ヲ以。

長門國。

一高拾六萬六千六百貳拾三石餘。

外ニ新田打出。

一高貳拾八萬四千三百三拾九石餘。

一合高四拾五萬九百六拾貳石餘。

五餘餘内。

拾貳萬四千六拾三石餘。

但豐浦郡厚狹郡之内支藩豐浦へ

配地新田打出共。

六千百拾六石餘。

但阿武郡之内支藩徳山へ同斷。

殘リ。

高三拾貳萬七百八拾貳石餘。

元治元甲子年ヨリ。明治元戊辰年迄。五箇年平均。

正租納。

一米九萬五千五百八拾八石。

一錢五萬九百六拾六貫文。

但通用藩札銀ニシテ五百九貫六百

六拾目ヲ以尤壹匁ニ付百文ニ當ル

雜稅納。

一米壹萬九千五百貳拾壹石。

一銀四百七拾貫四百貳拾目。

但通用藩札ヲ以。

以上。

諸產物并諸稅數。

一紙。生蠟。塩。石炭。木綿。陶器。

一辨柄。干蛇。干瀬戸貝。煎海流。

一鱈鱒。鯨油。椀。蜂蜜。櫛。蕨粉。

一綠礬。

右之外小々產物除之。

一銀百五拾貫三百四拾目。

但物産ハ當ル諸稅高。

以上。

公廨一箇年之費用。

會計局

一米壹萬六千六百六拾八石

一銀貳萬九千七百七拾五貫九百八拾目

右朝覲諸用軍費金上納京師東京大坂

藩邸山口公廨營繕諸局雜用官員役給

諸借償年賦返濟士卒救米褒賞其他諸

費

一米拾壹萬三千七百拾五石

一銀三百八拾貫五百四拾目

右士族卒族其外給祿

民事局

一米四千八百三拾四石

一銀千貳百七拾壹貫貳百四拾目

右郡村諸普請賑貸蠲免否起飯米人馬

催役諸用地租其他諸費

軍事局

一米壹萬三千五百四拾石

一銀壹萬六千七百九拾三貫六百五拾目

右常備兵隊飯料月俸陣屋營作銃創人
扶助大小砲買入鑄造彈藥製造軍艦運
輸船修復其他諸費

學校

一米三千五百貳拾壹石

一銀千貳百八拾九貫貳百三拾目

右校內并醫院郷校入費西洋其外游學
諸費

合米拾五萬貳千貳百七拾八石

銀四萬九千五百拾貫六百四拾目

以上

藩士兵卒員數并從前之祿扶持米

一藩士三千人

此祿高四拾萬八千七百八拾五石餘

一兵卒壹萬貳千貳百五拾貳人

內

兵卒四千貳百三拾七人

此恩扶持高六萬千五百九拾八石

常備兵隊貳千貳百四十九人

此月俸一箇年分

一六平米八千九拾六石餘

一銀貳千四百貳拾六貫八百八拾

一義士三月

陪率五千七百六十六人

此恩扶持藩士銘々祿高之内ヲ以

遣之

以上

社寺人員并從前之祿高

一社人拾四人

此社料

一高貳百九拾九石餘

一僧三拾九人

此寺料

一高六千七百四十壹石餘

一高貳百貳拾五石餘

一現米六百三拾三石餘。

右豐浦一宮。二宮。藝州嚴島社。其外祿扶持米高。

一計以上。

支配地人口戶數。

周防國。

一家數七萬六百六拾八軒。

男拾五萬八千七百六十貳人。

女拾五萬三百七十三人。

右百姓町人。

一同五百拾軒。

男千七百四十八人。

女貳千百六十四人。

右社家山伏育僧其外。

合家數七萬千百七拾八軒。

男拾六萬五百十人。

女拾五萬貳千五百三拾七人。

一寺院六百九拾箇寺。

僧千五百五拾壹人。

尼三拾貳人。

長門國。

一家數四萬三千六軒。

男九萬七千九百六十九人。

女九萬八百貳拾壹人。

右百姓町人。

一同四百貳拾軒。

男千三百貳拾七人。

女千七百五拾七人。

右社家山伏盲僧其外。

合家數四萬三千四百貳拾六軒。

男九萬九千貳百人。

女九萬貳千五百七十八人。

一寺院四百七拾四箇寺。

僧千三百七拾貳人。

道心者七人。

尼三拾貳人。

以上

右今般

御沙汰之趣ヲ以從來支配地總高其外取
調前書之通御坐候以上

巳十月漢十五百六十山口藩知事

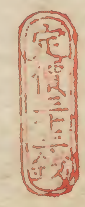
只此為水千五百六

合卷據四百三十四百餘林六俾

山口縣史略卷第三終

山口縣史略卷第三終

明治十三年七月廿八日板權免許
明治十五年七月出版



著者

山口縣士族

近藤清石

周防國吉敷郡山口
八幡馬場十番地居住

同縣平民

宮川臣吉

周防國吉敷郡山口
中市町六番地居住

出版人

